

健康通信

問合先 市民病院 (☎ 76 - 4131)

多発性骨髄腫について

血液内科 部長医師 上田 格弘

多発性骨髄腫は、骨髄の中で形質細胞という免疫に関わる細胞が、がん化して異常に増殖する血液の病気です。主に高齢者に多くみられる疾患で、高齢化が進む近年では患者数は増加傾向にあり、まれな病気ではなく、身近な疾患の一つとして認識されるようになってきています。

この病気では、がん化した形質細胞が骨髄内で増えることで、骨がもろくなったり、血液を作る働きが悪くなったりします。その結果、骨折を起こしやすくなったり、貧血による倦怠感や息切れが引き起こされます。また、腎臓に負担がかかり、腎臓の機能が徐々に低下していくこともあります。

かつて、多発性骨髄腫は、有効な治療法が乏しく、病気の進行を抑えることが難しい疾患でした。全身の骨がもろくなり、骨折を繰り返しながら進行し、致命的となることも少なくありませんでした。しかし、ここ 20 年ほどで治療は大きく進歩しました。

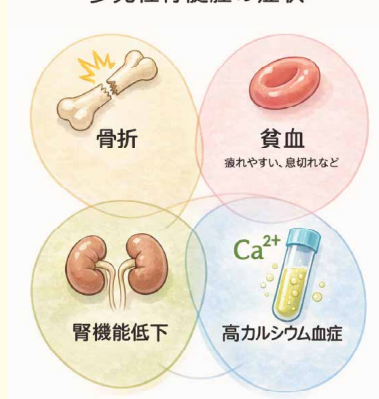
現在の治療は、分子標的薬と呼ばれる新しいタイプの薬を複数併用する薬物療法が主体となっています。これらの薬は、がん細胞の特徴を狙って作用するため、従来の治療に比べて副作用が比較的少なく、患者さんの年齢や体力、病状に応じた治療が可能となっています。病気を長期間コントロールしながら、生活の質を保ち、日常生活を送り続けることができる時代となっています。

一方で、初期には自覚症状が乏しいことも多く、骨折をきっかけに見つかる場合もあります。多発性骨髄腫による骨の変化は、初期には骨粗しょう症との区別が難しいことがあり、診断に時間を要することもあります。

「軽い外傷で骨折を繰り返す」「原因不明の貧血がある」「原因がはっきりしないまま腎臓の機能低下が徐々に進行している」などの場合には、多発性骨髄腫の可能性を考え、早めに血液内科で詳しい検査を受けることが重要です。

市民病院の血液内科では、これまでに多発性骨髄腫の診療経験を数多く積み重ねています。近年の治療の進歩を踏まえ、一人ひとりの患者さんの状態に合わせた、適切な治療を提供しています。多発性骨髄腫が疑われる症状やご不安がある場合には、当院血液内科へご相談ください。

多発性骨髄腫の症状



病院ホームページ▶

